

◆ 今週のコメント

- ・ **デング熱**の報告が1例(男性, 30歳代)あります。推定感染地域は国外(中華人民共和国)です。現在、京都市内で報告されているデング熱は、全て海外の流行地で感染し、帰国後に発症する輸入症例です。
本年8月26日に、海外渡航歴がなく国内で感染したと考えられるデング熱患者が確認されました。これは1942年～1945年の流行以来、約70年ぶりの国内での発生例で、10月9日現在157名の感染者が報告されています。
デング熱はヒトからヒトには感染しませんが、ヒト→蚊→ヒトという経路で感染します。媒介種の一つであるヒトスジシマカ(ヤブカ)は日本に広く分布していますので、海外からの帰国者が発症した場合、感染拡大を防止するため、蚊に刺されないように注意する必要があります。
- ・ **麻しん(検査診断例)**の報告が1例(男性, 20歳代)あり、本年の累積報告数は4例となっています。推定感染地域は国外(フィリピン)で、遺伝子型は海外由来型のB3型です。
麻しん排除に向けて、感染拡大の防止及び流行状況の把握を迅速に行うことが重要であることから、医療機関におかれましては、麻しんを診断された場合、速やかに所轄の保健センターに届出てください。また、検体(咽頭ぬぐい液、血液(EDTA血あるいはクエン酸血)、尿)の提供を依頼することがありますので、ご協力をお願い致します。

◆ 今週のトピックス: <水痘>

水痘の定点当たり報告数は0.80(33例)で、前週 0.17(7例)に比べ4.7倍に増加し、過去5年間の同時期と比較して最も多い報告数となっています。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数把握の感染症

- ・ 二類:結核 1例(肺結核 1例, その他結核 なし, 潜在性結核感染者 なし)うち喀痰塗抹陽性 なし
【1月以降の累積報告数 303例(肺結核 155例, その他結核 74例, 潜在性結核感染者 74例)うち喀痰塗抹陽性 81例】
- ・ 三類:腸管出血性大腸菌感染症 1例【1月以降の累積報告数 23例】
- ・ 四類:デング熱 1例【1月以降の累積報告数 4例】
- ・ 四類:レジオネラ症(肺炎型) 1例【1月以降の累積報告数 10例】
- ・ 五類:アメーバ赤痢(腸管アメーバ症) 1例【1月以降の累積報告数 14例】
- ・ 五類:梅毒(早期顕症Ⅱ期) 1例【1月以降の累積報告数 11例】
- ・ 五類:麻しん(検査診断例) 1例【1月以降の累積報告数 4例】

定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点68, 小児科定点41, 眼科定点10, 基幹定点1)

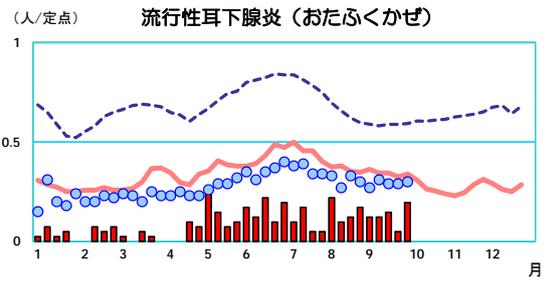
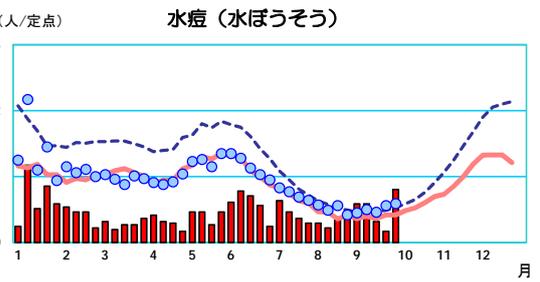
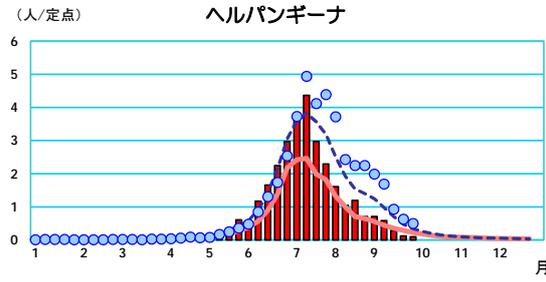
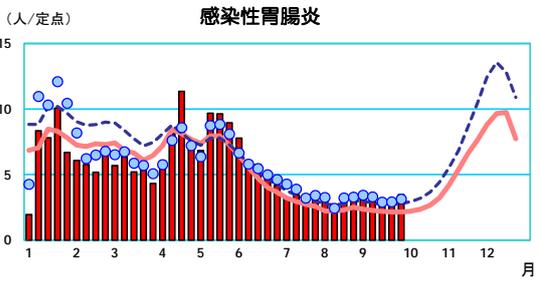
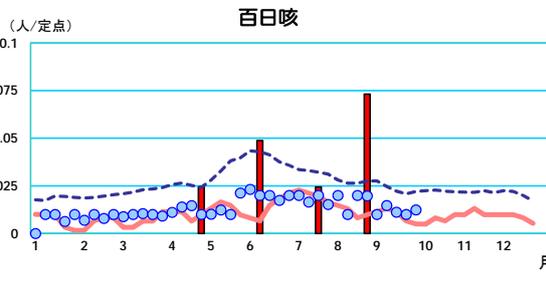
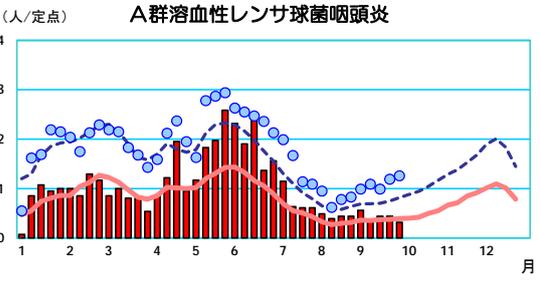
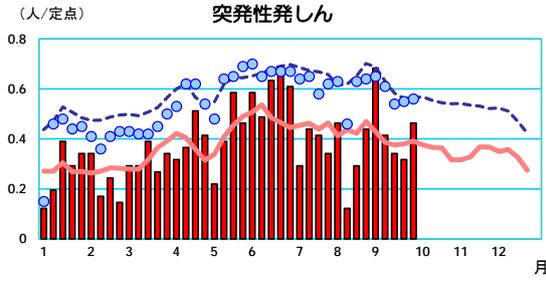
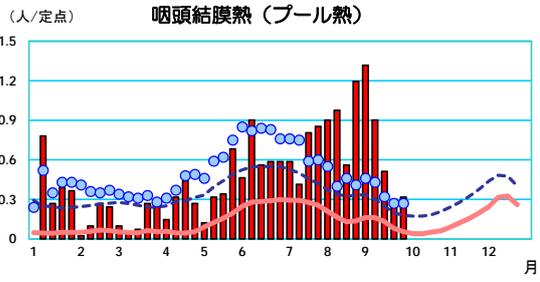
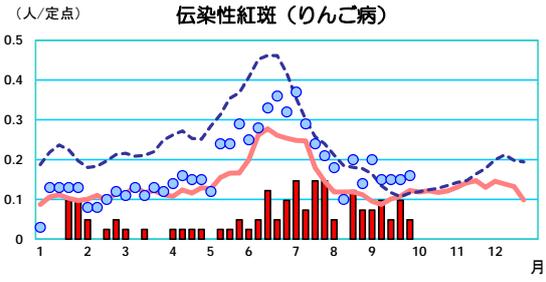
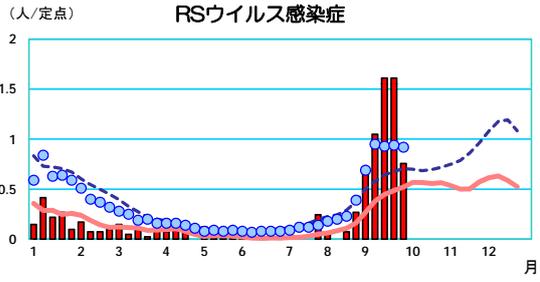
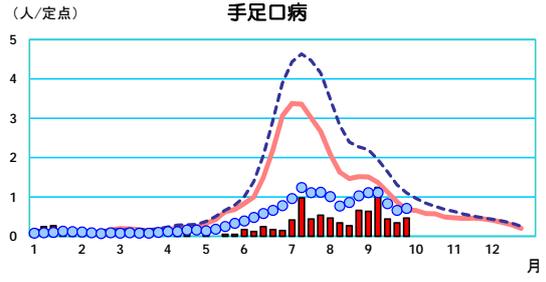
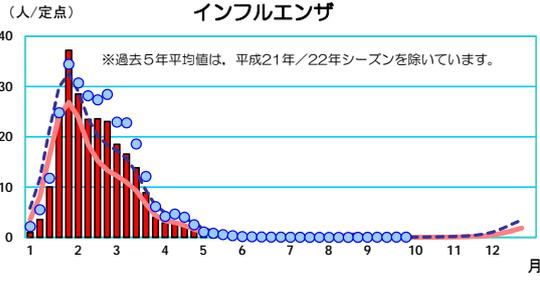
定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	0.00	0
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	3.46	142
	② 水痘	0.80	33
	③ RSウイルス感染症	0.76	31
	④ 手足口病	0.46	19
	④ 突発性発しん	0.46	19
眼科	流行性角結膜炎	0.70	7

【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <水痘>

(注) 京都市のデータは、平成26年10月9日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。
また、本情報での患者数は、届出医療機関所在地での集計で、患者の住所を示すものではありません。

インフルエンザ及び小児感染症の疾病別推移グラフ（平成26年）



第40週(9月29日～10月5日)トピックス: <水痘>

水痘の定点当たり報告数は0.80(33例)で、前週 0.17(7例)に比べ4.7倍に増加し、過去5年間の同時期と比較して最も多い報告数となっています。また、今週の報告数は、今年初めて「過去5年平均値+2SD(*)」を上回っており、過去5年間の発生状況よりもかなり多いことが示されています。例年、冬にかけて増加しますので、今後の動向に御注意下さい。

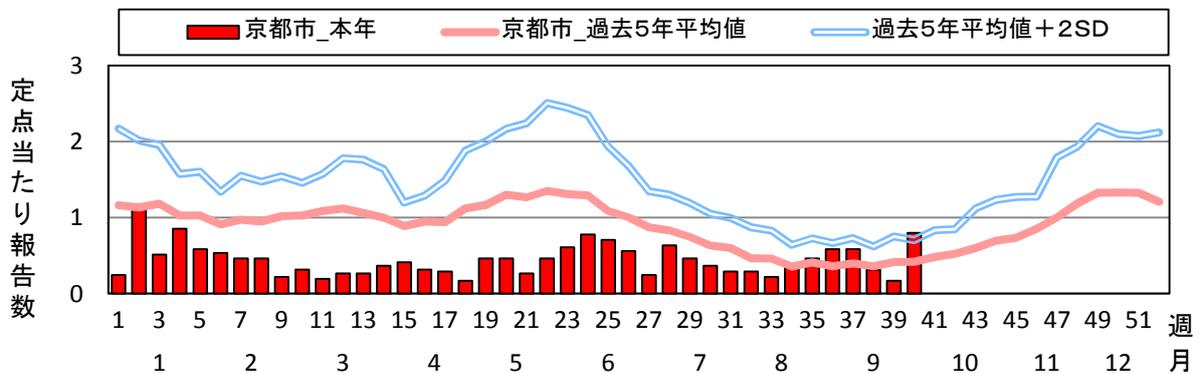
水痘とは、いわゆる「みずぼうそう」のことで、水痘帯状疱疹ウイルスというウイルスによって引き起こされる発疹性の病気です。9歳以下での発症が90%以上を占めると言われています。健康な子どもの場合は一般に軽い症状で済みますが、中には重症化して、肺炎や脳炎などの合併症を起こすことがあります。

年齢階級別では、1歳 9例(27.3%)が最も多く、次いで2歳 8例(24.2%)、3歳 5例(15.2%)の順となっています。9歳以下での発症が100%です。

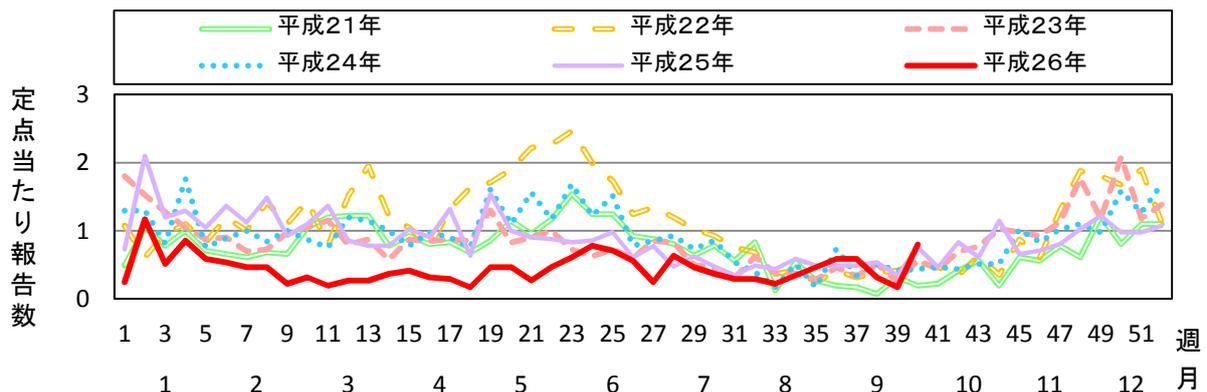
平成26年10月1日より、予防接種法施行令等の一部が改正され、水痘ワクチンの予防接種が定期接種化されました。水痘ワクチンの1回の接種によって重症の水痘をほぼ100%予防でき、2回の接種によって軽症の水痘も含め、その発症を予防することができるため、予防接種が推奨されます。

(*)SDとは標準偏差のことで、データのばらつきの大きさを示す尺度です。下のグラフにおいて、赤の棒グラフ(本年の定点あたり報告数)がブルーのライン(過去5年平均値+2SD)を超えているときには、過去5年間と比較してかなり多いことを意味しています。

本市の定点あたり報告数の推移



本市の過去5年間との週別比較



年齢階級別割合の推移

